

V226b 観測データ基盤「西はりまスキーム」の構築

高橋茂（兵庫県立大学）, 吉田二美（産業医科大学, 千葉工業大学）, 伊藤洋一（兵庫県立大学）

国内の大学・地方公共天文台では、多様な天体を継続的に観測することが可能であり、そこで得られるデータは天文学研究を支える重要な情報となり得る。しかし現状では、品質保証や公開方法が統一されていないため、その価値が十分に活かされているとは言い難い。

本研究では、この課題に対応するために「西はりまスキーム」と称する観測データ基盤を構築し、西はりま天文台で得られる観測データの体系的な公開を進める。公開対象はなゆた望遠鏡による分光・測光・撮像データである。すでに西はりま天文台では、国立天文台のSMOKAよりRAWデータを公開しているが、「西はりまスキーム」では、RAWデータのみでなく、可能な範囲で品質保証（QA）を付与した一次処理データも公開する。また、太陽系小天体の掩蔽観測に関しても観測結果を集約・解析し、公開するための専用基盤を整備する予定である。

「西はりまスキーム」は、東京大学情報基盤センターのmdx上に構築することで、天文台がサーバやストレージを独自に管理する必要をなくし、低コストかつ柔軟な運用を実現する。将来的には、西はりま天文台のみならず、他の大学・公共天文台でも利用可能な共通基盤へと発展させ、国内の大学天文台ネットワーク全体が持続的に観測データを蓄積・公開できる体制の確立を目指す。